京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2023 年　4月　　24日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所 属 部 局　京都大学医学部附属病院緩和医療科

職　　名　特定病院助教

氏　　名　大沢　恭子

助成の種類	**令和4年度　・　研究活動推進助成**		
申請時の科研費研究課題名	がん患者の補完代替医療とヘルスリテラシーの関連、および医療者との情報共有の促進		
上記以外で助成金を充当した研究内容	なし		
助成金充当に関わる共同研究者	(所属・職名・氏名) 京都大学医学研究科・教授・恒藤 暁 京都大学医学研究科・准教授・谷向 仁 京都大学医学研究科・教授・田村 恵子		
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) 無し。今後、研究成果が蓄積した段階で論文化予定。		
成果の概要	**研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)**		
会計報告	交付を受けた助成金額	1,000,000　円	
	使用した助成金額	1,000,000　円	
	返納すべき助成金額	0　円	
	助成金の使途内訳	費　目	金　額
		Webアンケート調査費	944,000
		学会参加費	56,000
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 本助成により調査研究を実施することができ、本研究からアイデアを得た研究が、2023年度の科研費基盤研究(C)に採択されました。当財団の助成により研究のきっかけを頂いたことで、今後もこの分野の研究を継続し、発展させていく可能性が示されました。財団のご支援に心より感謝申し上げます。		

成果の概要 / 大沢恭子

【研究内容】

ヘルスリテラシーは患者が信頼できる情報や有用な情報を見分け・活用していくための力のことをいう。情報社会の現代において、医療の様々な分野においてヘルスリテラシーが注目されているが、がん患者のヘルスリテラシーについては、日本での先行研究はない。これは厚生労働省が進める統合医療の観点からも非常に重要な問題であり、早急に取り組むべき課題である。一方、補完代替医療に関しても、多くのがん患者が使用しているというデータがあるにもかかわらず、本邦における使用実態に関しては不明な部分が多く、その実態把握も喫緊の課題である。

そこで今回、上記の２つのテーマに着目し、がん患者の補完代替医療の利用の実態とヘルスリテラシーとの関連についての知見を獲得することを目的に研究を実施した。

【研究成果】

上記目標を達成するため、対象者にヘルスリテラシーと補完代替療法に関するアンケート調査を行った。アンケートは研究者らが作成し、調査を調査会社に業務委託し、モニター登録されているがん患者に対してインターネット上で実施した。今回のアンケート調査では予備調査を経て、適格基準を満たす 2068 症例が対象者として抽出された。症例の抽出にあたっては、この分野での先行研究が少ないことから探索的な調査となることを考慮し、調査人数をできるだけ多く、また対象者の年齢や性別の偏りができるだけ少なくなることに配慮した。この調査により、身体状況・生活状況・がん治療の経過等の患者の背景因子、補完代替医療の使用の有無と使用した補完代替医療の種類や時期、金額、使用の理由や補完代替医療に対する期待と効果など、さらにヘルスリテラシーについても客観的な評価を用いてデータを収集した。

本データを用い、ヘルスリテラシーに影響する患者要因、補完代替医療とヘルスリテラシーの関連、および補完代替医療の副作用出現時の医療者への相談の有無と程度およびヘルスリテラシーの関連について、現在解析を進めている。結果の一例としては、補完代替医療の副作用出現時、その補完代替医療を中止するかどうかを判断するためには、多職種の支援が必要であることが示された。

【今後の見通し】

引き続き結果の解析を進め、本研究の成果を国外および国内の学術雑誌に投稿予定である。